

# 第38回「議員と語りかい」報告書

総務環境常任委員会 (No.1)

開催日	令和4年7月26日 13時00分 ~ 14時30分		
開催場所	議会棟第3・4委員会室		
団体名	人権を守る会かごしま	参加人員	11人 (男 7人:女 4人)
出席議員	宮田 竜二、今吉 直樹、松下 太葵、藤田 直仁、松枝 正浩、 前島 広紀、有村 隆志、仮屋 国治、宮内 博		
役割分担	班 長 (宮田 竜二) 副班長 (今吉 直樹) 記録係 (松下 太葵)		
テーマ及び具 体的な内容	霧島市人権条例制定について 本年3月の県人権条例制定を踏まえ、霧島市においても部落問題をはじめとするあらゆる差別をなくし、多様性を尊重する社会を実現するための人権条例制定について。		

	◆は参加者の質問・要望    ◇は議員の回答
意見交換での主な意見等	<p>◆私どもは、人権条例が必要だという方針を持っている。議員は皆もちろん、市民、県民の皆様方にこのような実態、問題性、課題を知っていただきたいということで、冊子化をした。この冊子を作る途中で、今年の3月に県も、人権条例を制定した。県の人権条例を見ながら霧島市も検討していく方向と伺っている。霧島市内で明らかになったネット上の書き込み、部落差別の書き込みもある。その場所の土地、空き物件、幼稚園、中学校、苗字、陰口など色々ある。</p> <p>◇ネットの書き込みは最近もあるのか。</p> <p>◆3年前に発覚したもので、ネットの日付をみると2016年である。2022年で続いているものは、車で全国の被差別部落を動画で撮影し、地名、住所、苗字などを本にして、売り出すという事もしている。本は裁判で差止めになったが、ネット上で誰でも見る状態である。</p> <p>◇昔と違って今の子ども達は、ネットに耐性がついており規則も厳しくなっていることや、差別的に書いている人を特定できることを知っているのだから、なじまない。部落差別を気にしない人達や雇用する時とかも気にしない人もいると思う。どう配慮すべきか。</p>

◆は参加者の質問・要望 ◇は議員の回答

◆差別を気にする人もいる。女子プロレスラーの木村花さんは差別書き込みで命をおとした。

◆議員や市長、会社経営者など各地位がある方は、そのやり方に不満があり書き込み、中傷っていうのは多々あると思う。それと部落差別による書き込み、差別は違う。何の責任もなくそこに生まれただけで、差別される。そこを考えて、一緒に学習してもらいたい。

◇誰しも生きやすい世の中でなければならないというのはある。令和4年3月11日に鹿児島県が人権尊重の社会づくり条例を制定した。

意見交換での主な意見等

◇本来自然に皆さんが生きていける。そういう世の中であるのが1番いいと思うが様々な問題があり、そういうものを作らざるを得ない世の中になっているということは私も承知をしている。条例を作る事がいいのか、計画を霧島市で作っているの、その辺を改定しながら実質的に具体的に進めていくのも一つの進め方じゃないか。

◆人権条例があれば、予算の確保を含め、受け止め方が全然違ってくる。一般事業でもいいので事業費を入れて欲しい。

◇部落問題についても、議会で機会あるごとに発言してきた。私どもは将来的な展望として、この部落問題というのは、地域と部落と言われる垣根を取り払って行く事だと思う。条例を作る事が最優先なのかという点で私は少し、疑問を持っている。中核をきちんと進めて、地域との垣根をなくしていくという取組を、同時にやって行くという事がなければなかなか実現しない問題ではないか。

◆私たちは強くこれまでもこれからも、この条例の制定が、日本中に広がって行って欲しいと願っている。その目的は私たち一人一人の、この社会に住む人権が尊重される社会を目指している。